

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	〒621-0022 京都府亀岡市曾我部町南条中向田1番地								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	太陽機械工業株式会社 代表取締役 社長 安盛 善								
事業者の主たる業種	自動車部品・付属品製造業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年 4月 ～ 平成23年 3月								
基本方針	省エネルギー省資源の推進、廃棄物の削減などISO14001の維持・改善により3.0%以上の二酸化炭素排出量の削減を目指す。								
推進体制	社長を最高責任者とし、新たにその削減実行責任者としてエネルギー管理統括者を設置。各部門長（常務取締役及び取締役）が、自部署を統括する「省エネ推進体制」を設置し実施計画の策定、目標管理アクションプラン進捗表により進捗管理をする。								
	環境マネジメントシステム名称	IOS14001							
	適用範囲	園部工場							
	取得年月日	2002年 5月 28日							
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	H20年～H21年	製造部門	生産設備への省エネ回路導入[油圧制御回路の改善]（改善対象 50台）						
	H20年～H22年	製造部門・技術部門	生産性向上（5.0%）改善 不適合品の低減（10%）改善						
	H20年～H22年	全部門	休憩時間、非稼働時間の照明灯切り 事務所、空調温度の順守 アイドリング・ストップ 100%順守						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） (H19) 年度 (二酸化炭素換算)	目標年度（計画） (H22) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度（実績） (H20) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
	A 事業所等排出区分	8,464.0 t	8,206.0 t	-3.0 %	5,987.2 t	-29.3 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	*1 8,464.0 t	*2 8,206.0 t	-3.0 %	*3 5,987.2 t	-29.3 %			
	実績に対する自己評価	計画以上の改善実績及び生産量減により排出量減							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	園部工場	二酸化炭素換算 内製生産金額	3.038 t-CO2/百万円	2.947 t-CO2/百万円	-3.0 %	2.709 t-CO2/百万円	-10.8 %		
	亀岡工場	二酸化炭素換算 内製生産金額	1.903 t-CO2/百万円	1.846 t-CO2/百万円	-3.0 %	2.277 t-CO2/百万円	19.7 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
	実績に対する自己評価	園部工場は計画以上の改善が実施出来目標を達成。亀岡工場は生産量の激減により生産ラインの稼働時間のバラツキが発生しエネルギー使用効率が大きく悪化する。H21年度は園部工場へのライ集約も含め削減を図る。							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		(二酸化炭素換算)		取組量等		(二酸化炭素換算)	
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m ³	(削減量)	t	(利用量)	m ³	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t	(発電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量)	t	(削減量)	t	(購入量)	t	(削減量)	t
	削減量等合計			*3 t			*4 t		
	差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
	1 8,464.0 t	()2-(*)3 8,206.0 t	-3.0 %	(**)-(**) 5,987.2 t	-29.3 %				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動									
特記事項	1. コージェネ排熱 工場冷暖房に活用 (H13年度設置) 2. 廃油、古紙、ダンボール、プラスチックのリサイクル 3. 従業員への環境教育								

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実施、特定フロンなどの条約指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。